

第1回 あびこeモニターアンケート 「地域の学校に関する住民意識について」集計結果

アンケート実施期間 令和6年7月2日（火）から令和6年7月16日（火）まで

登録者数 439名

回答者数 297名

回答率 67.65%

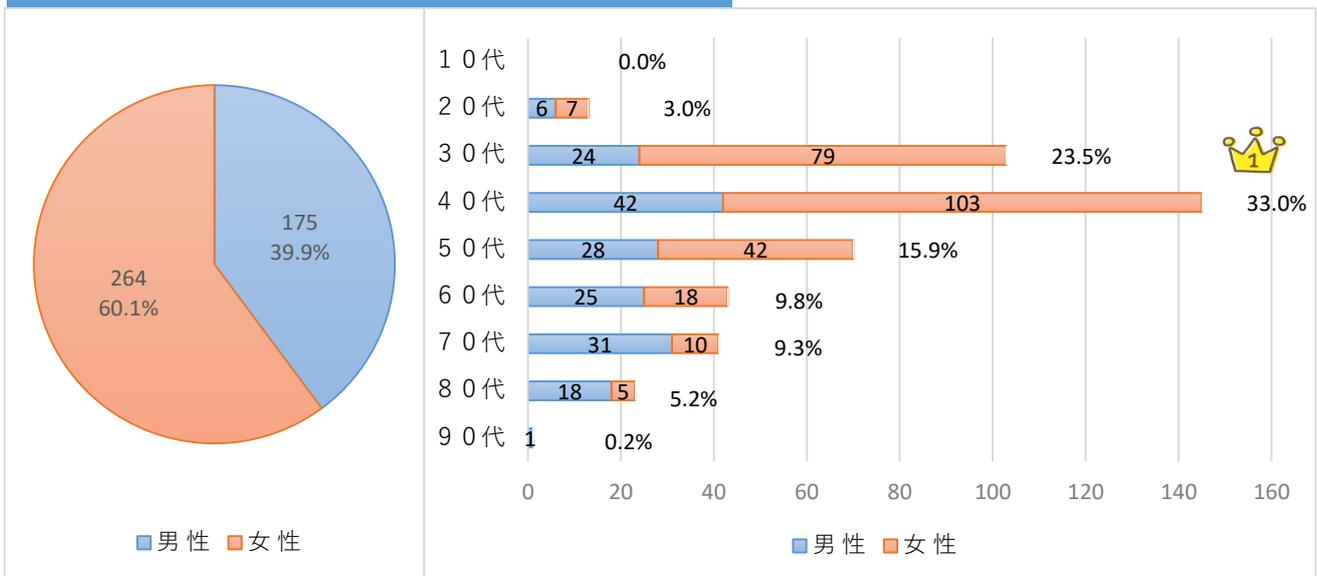
<担当課> 教育総務部 学校教育課

<実施の目的>

地域住民が子どもたちへの教育活動について「どのようなことを期待するか」、「地域としてどういった協力が可能だと考えるか」など、各地域における学校・家庭・地域の協力のあり方を検討する際の参考とする。

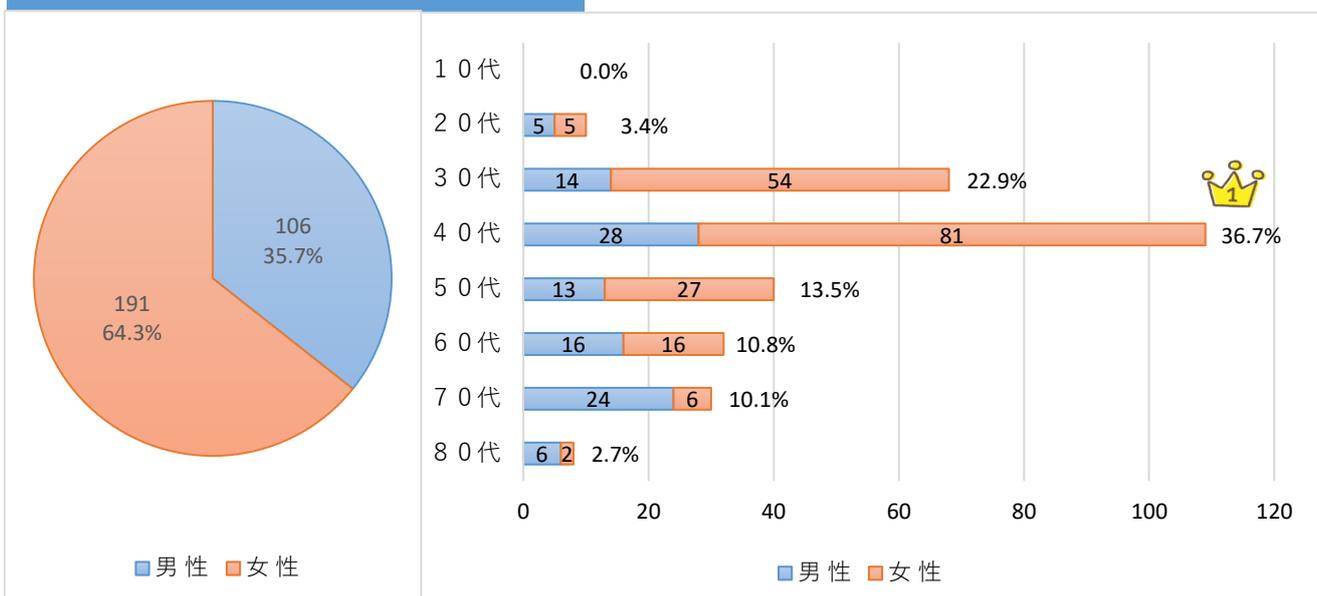
<あびこeモニターアンケート登録者の内訳> (人)

令和6年7月16日現在



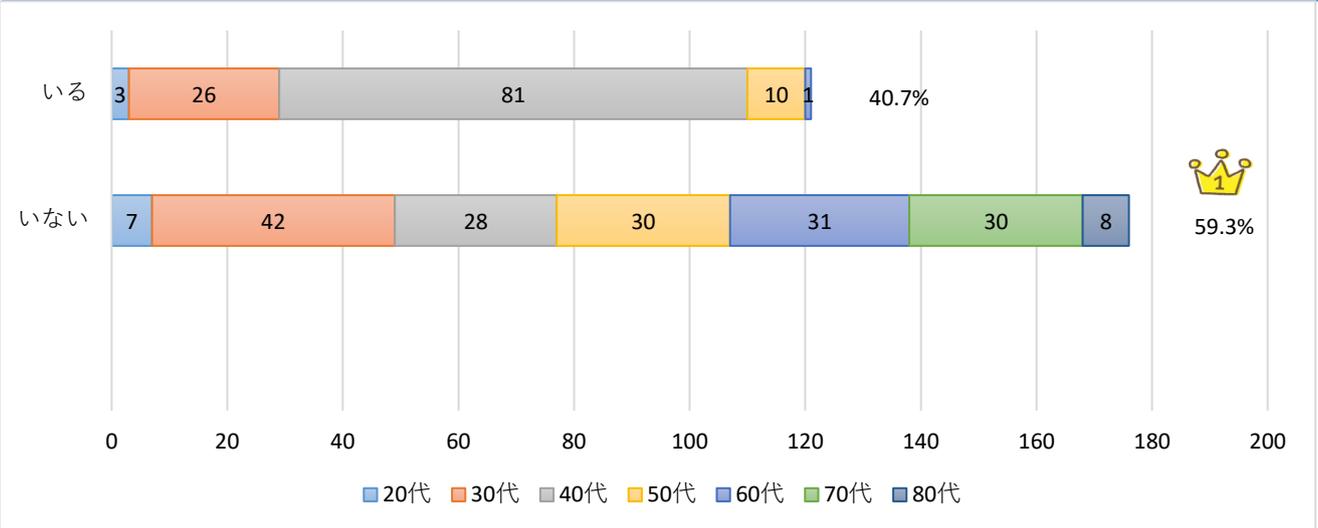
<アンケート回答者の内訳> (人)

令和6年7月16日現在



※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100%にならない場合があります。

問1 同居している方の中に小・中学生はいますか

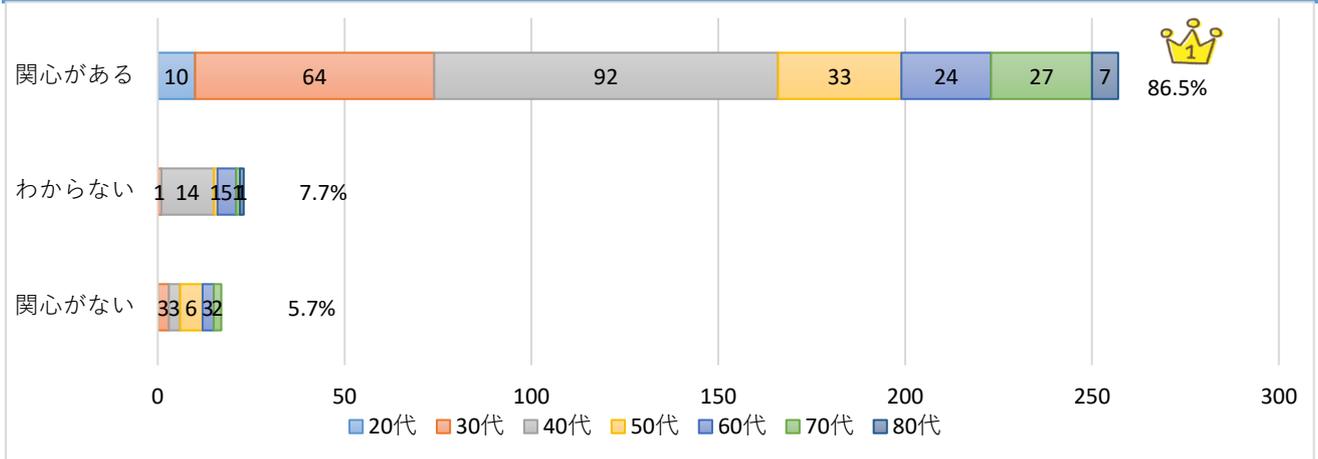


※パーセントは当該選択肢を選んだ方を回答者の中で割った数値となっております。

<コメント>

アンケートでは、小中学生の保護者が40%、それ以外の回答者が60%の割合でした。

問2 あなたは、あなたの地域にある学校（小中学校）に関心がありますか。

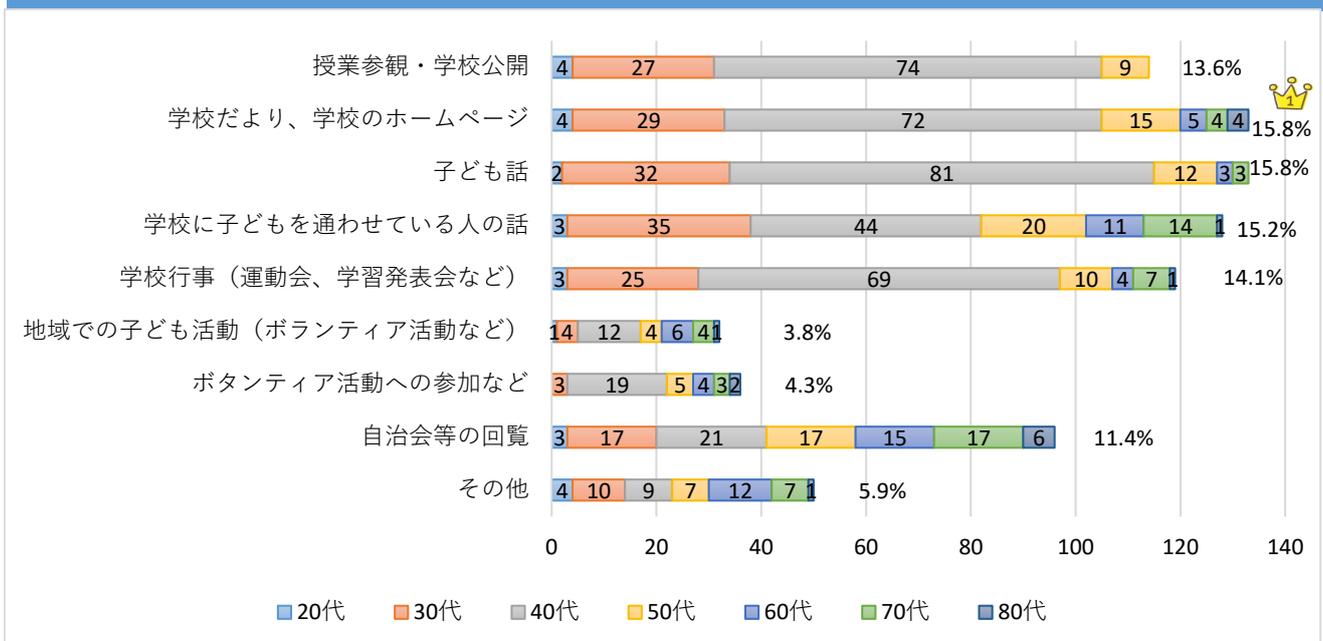


※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100%にならない場合があります。

<コメント>

多くの方が、ご自身が住んでいる地域の学校に関心があることがわかりました

問3 あなたは、地域にある学校・子どもたちの様子を主に何で知りますか。あてはまるものを全て選んでください



※複数選択のため、パーセントは当該選択肢を選んだ方を回答者の中で割った数値となっております。

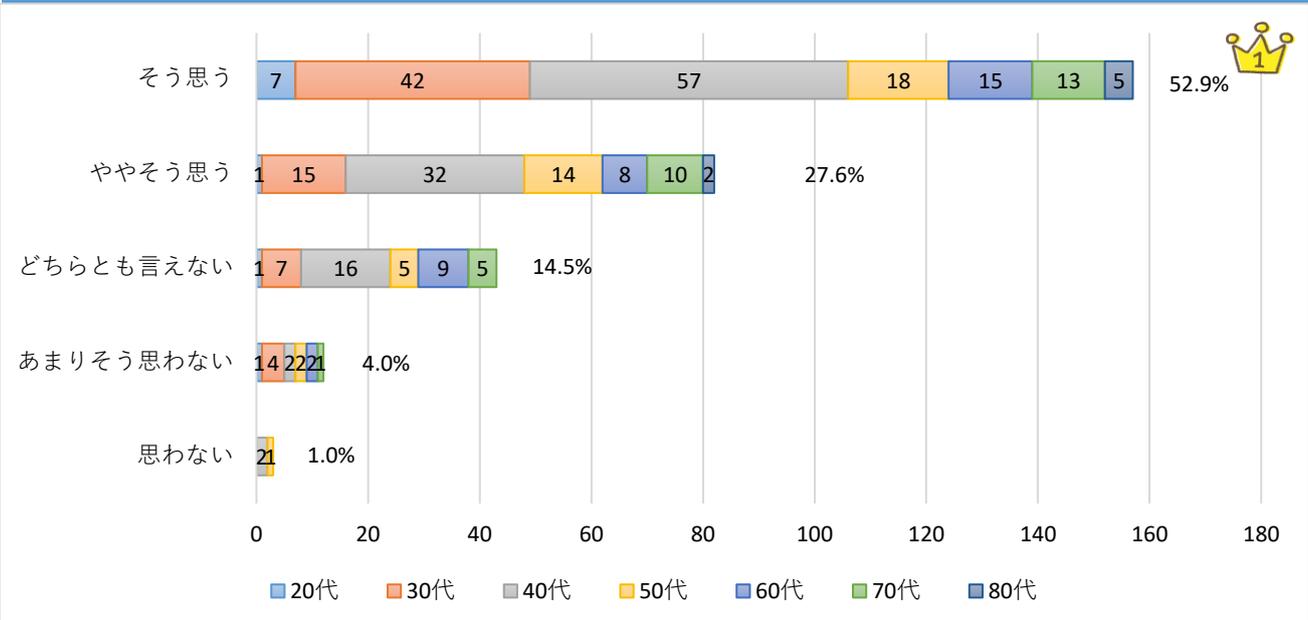
【その他回答】

- ・通学時の様子、クラブ活動の様子、公園で遊んでいる様子（同様の回答複数あり）
- ・近所に住んでいる、娘やその子供たちから聞いている。
- ・何も情報を得ていない。知る術がない。（同様の回答複数あり）
- ・学校に勤務しています。（同様の回答複数あり）
- ・地域でボランティア活動をしている家族の話から。
- ・職場でのお母さん達の会話。
- ・公園などの日常生活。
- ・運営協議会員として学校に関わっています。
- ・広報あびこ。
- ・孫の話。（同様の回答複数あり）
- ・地域の自治会役員会等。（同様の回答あり）

<コメント>

学校や子どもたちの様子を知る機会では、子どもの話や学校だより等で子どもたちの様子を知っていただいていることがわかりました。その他の回答についても参考とさせていただきます。

問4 あなたは、地域にある学校・子どもたちの様子を知る機会が増えたらよいと思いますか

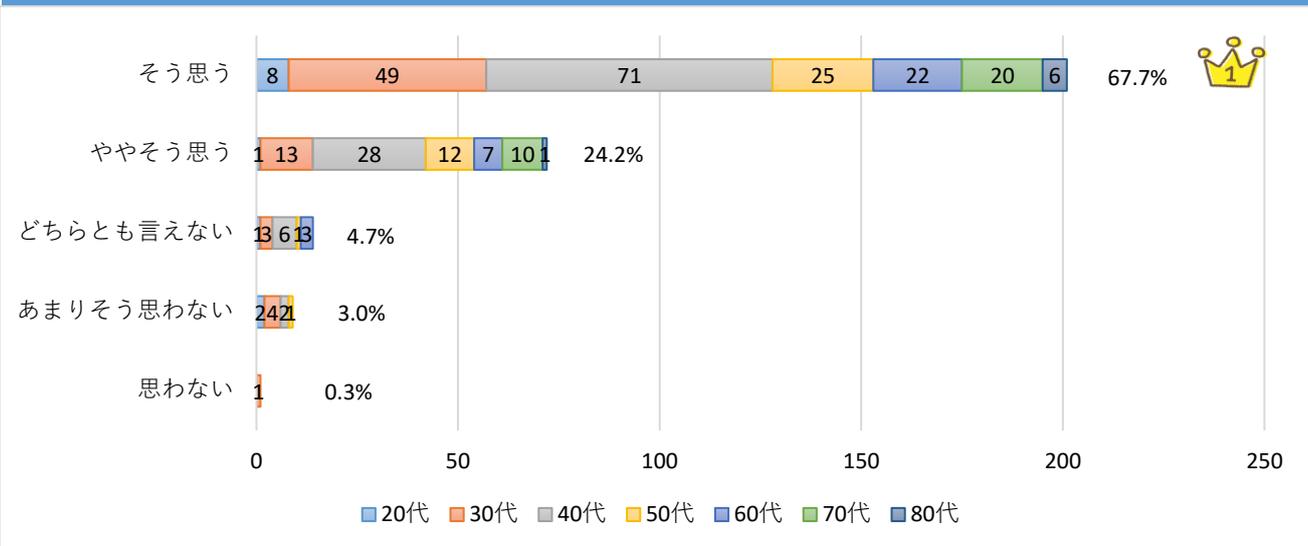


※パーセントは当該選択肢を選んだ方を回答者の中で割った数値となっております。

<コメント>

アンケート回答者の多くは、学校や子どもたちの様子を知る機会が増えたらよいと思う方が大半でした。今後も学校や子どもたちのことを知っていただけるように学校のホームページや自治会への配布物等でお知らせやご案内をしていきます。

問5 あなたは、子どもを育てるには、地域と学校の連携が必要であると思いますか

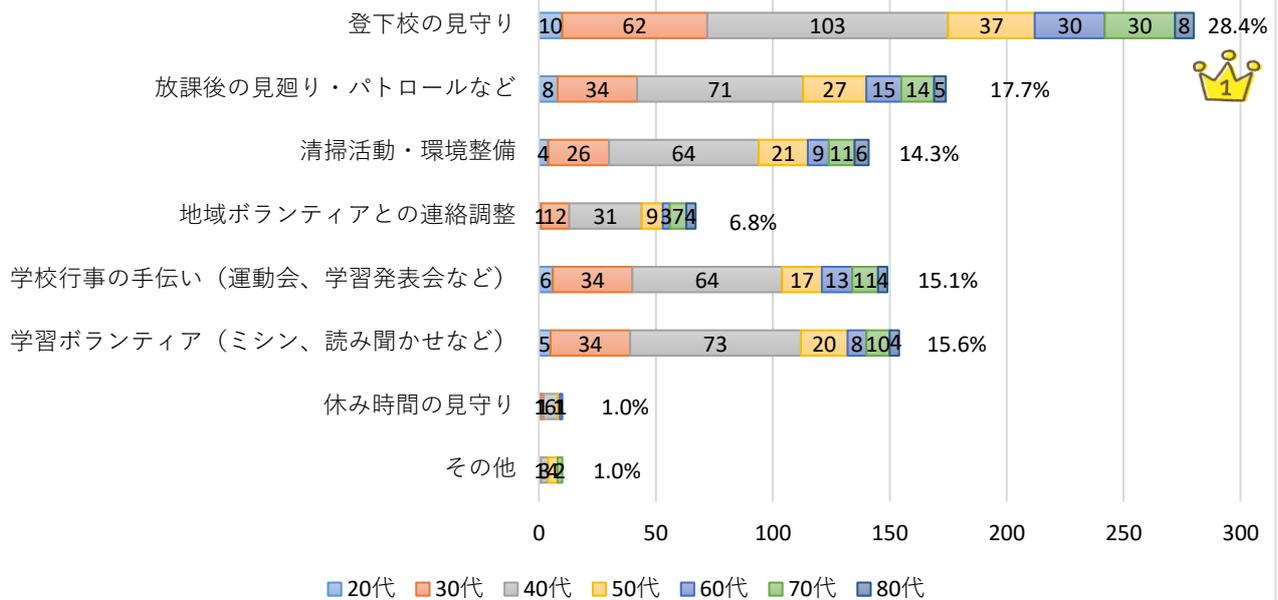


※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100%にならない場合があります。

<コメント>

アンケート回答者の多くは、地域と学校の連携が必要であると感じています。市教育委員会では、地域とともに学校づくりをするための学校運営協議会制度を導入し、学校と地域の連携・協働を図っています。各校には地域コーディネーターがいますので、課外活動への協力や環境整備などのボランティアを募集しています。ご興味のある方は、学校までお問い合わせください。

問6 あなたが学校のボランティア活動として、知っているものを全て選んでください



※複数選択のため、パーセントは当該選択肢を選んだ方を回答者の中で割った数値となっております。

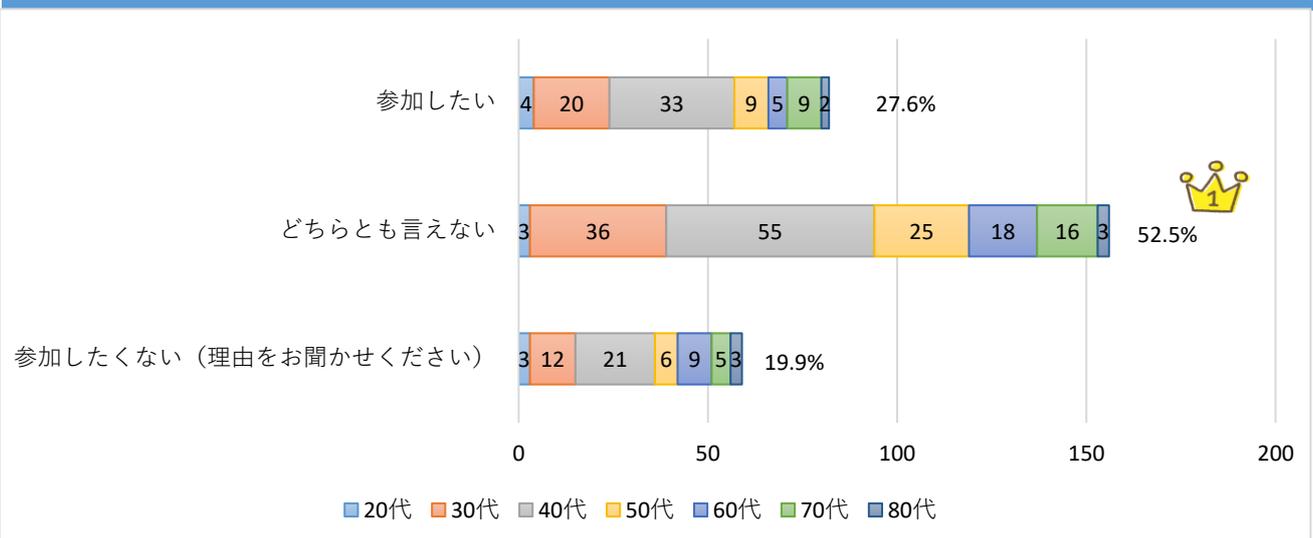
【その他回答】

- ・学校図書館関係 (蔵書点検のお手伝いなど) ・船戸の森 ・読み聞かせ、教育ミニ集会の企画、職場体験の体験先手配、職業人講和の講師手配など ・全て知らない (同様の回答あり)
- ・交差点での旗振り

<コメント>

ボランティア活動として、登下校の見守りが一番多く、皆さんに浸透していることがわかりました。引き続き、地域の皆さまのご協力をいただきますよう、お願いいたします。

問7 あなたは、学校のボランティア活動 (設問6の内容) に参加してみたいですか



※パーセントは当該選択肢を選んだ方を回答者の中で割った数値となっております。

【参加したくない理由】

・現在、まだ仕事をしているのと、親の介護があるため、時間的に余裕がない。 ・学校運営に必要な活動であれば、ボランティアに頼るべきではなく、原則公費で賄うべきという考えのため。

・仕事をしていると都合を合わせるのが難しい。また個人的には子供自身がすべきこと（学んでいくべきこと）の多くを大人やPTAが肩代わりしすぎていては、子供の自主性が育つわけがないと思っている。現状ボランティアに依存していることが多すぎると考えているから。 ・出来る限り参加したいが、フルタイムで仕事がある。休日は、子どもの世話がある。幼児がいる。（同様の回答多数あり） ・時間がない。時間が作れない。（同様の回答複数あり） ・80歳に近づいており、体力があまりない状態です。高齢のため（同様の回答複数あり） ・人疲れしてしまう。 ・我が身の健康寿命を延ばし、病院から遠ざかるよう、筋肉運動第一優先、体を鍛えるため対応できない。 ・地元の学校で活動している野球チームのコーチをして子どもと父母のみなさんと接している。（同様の回答あり） ・仕事の時間外で協力できることがあればしたいと思いますが、具体的な内容が思い浮かびませんでした。 ・苦手なので。 ・参加できる時間に、我孫子市内にいない。 ・ボランティアをつとめましたので。 ・当地区の学校に通学している家族がいないので。

・活動内容が子供に媚びをうるような活動だから。 ・朝の見守りは当番の際にやっています。

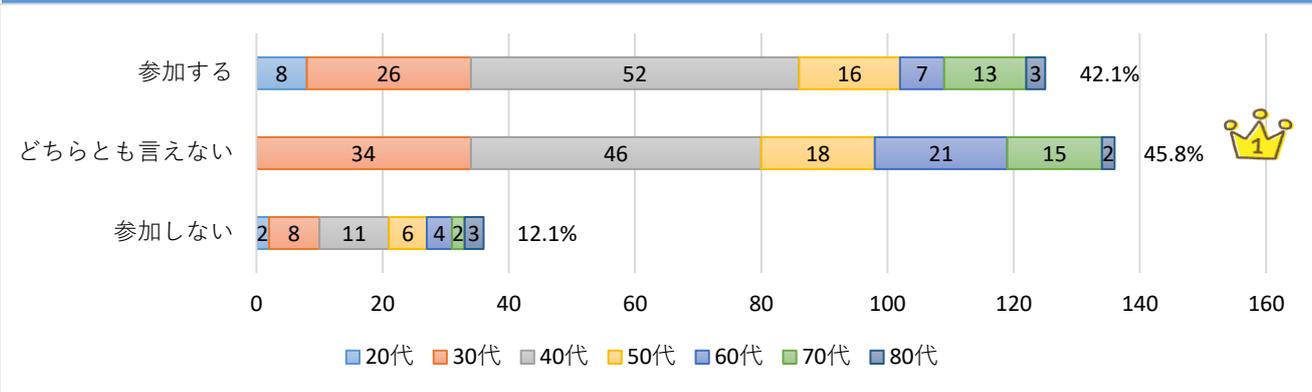
・子どもが学校に行っていないので居心地が悪い。 ・健康上の理由。体が不自由。体調が悪い。

・以前学習支援ボランティアをしていましたが、現在高齢の親のサポートのために、感染症をもらう可能性の高い環境にはできるだけ行かない方が良いと思っているため。 ・PTA役員だから。

<コメント>

実際のボランティア活動の参加としては、どちらとも言えないが一番多い回答となり、その他の回答も参考とさせていただきます。

問8 あなたは、地域の方が参加できる学校行事（バザー等）が行われたら参加しますか

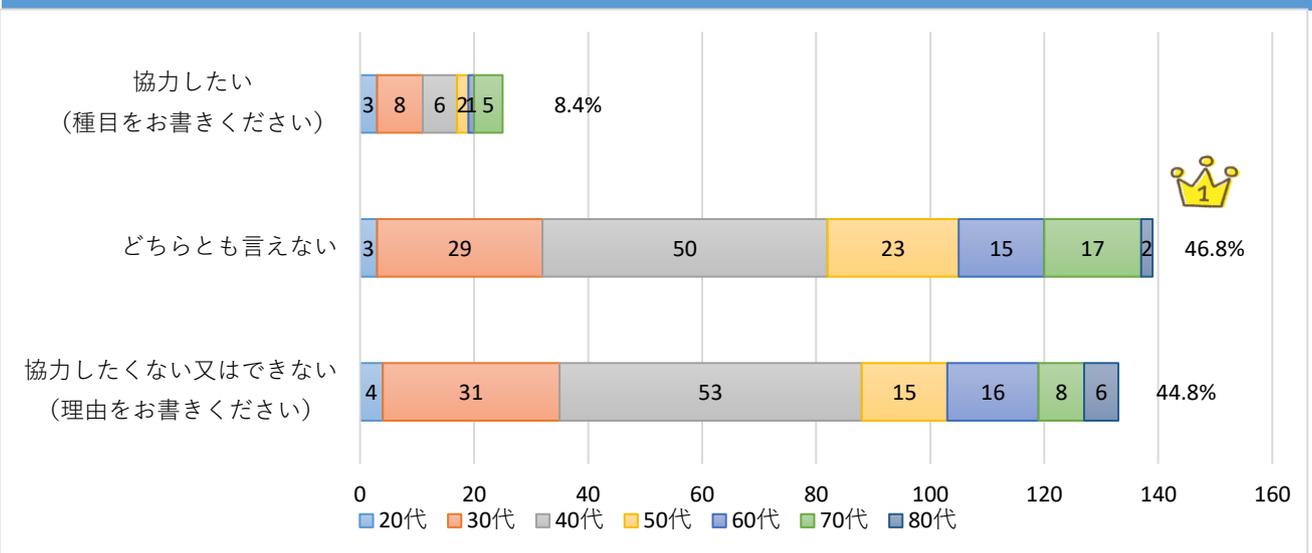


※パーセントは当該選択肢を選んだ方を回答者の中で割った数値となっております。

<コメント>

学校行事における参加についても、どちらとも言えないが一番多いことがわかりました。

問9 国・県では、現在、教員が担っている休日の中学校部活動を地域の指導者やクラブが主体となる「地域クラブ」活動に移行するとしています。あなたは、部活動地域移行にともなう地域指導者（※部活動指導員を含む）協力したいと思いますか ※部活動指導員 部活動の実技指導や大会、練習試合等の引率を教員と連携したり、教員に代わって行ったりする市の会計年度任用職員です。



※パーセントは当該選択肢を選んだ方を回答者の中で割った数値となっております。

【協力したいと回答した方の種目】

・是非とも協力したいと思っているが、出来る（種目？）カテゴリーが、限られている。 ・手芸（裁縫部）、コンピューター関連 ・卓球（登録済） ・剣道 ・英会話 ・陸上（同様の回答あり） ・野球、ソフトボール ・空手道 ・新体操 ・美術部 ・謎解き ・陶芸 ・スポーツ吹き矢 ・吹奏楽部（現在は、土日など実生活に支障がでるため不可）（同様の回答複数あり） ・学生時代吹奏楽部だったので、吹奏楽部の指導員をしてみたいが、ボランティアやボランティアに近い報酬でと言われると協力できないと思う。（同様の回答あり）

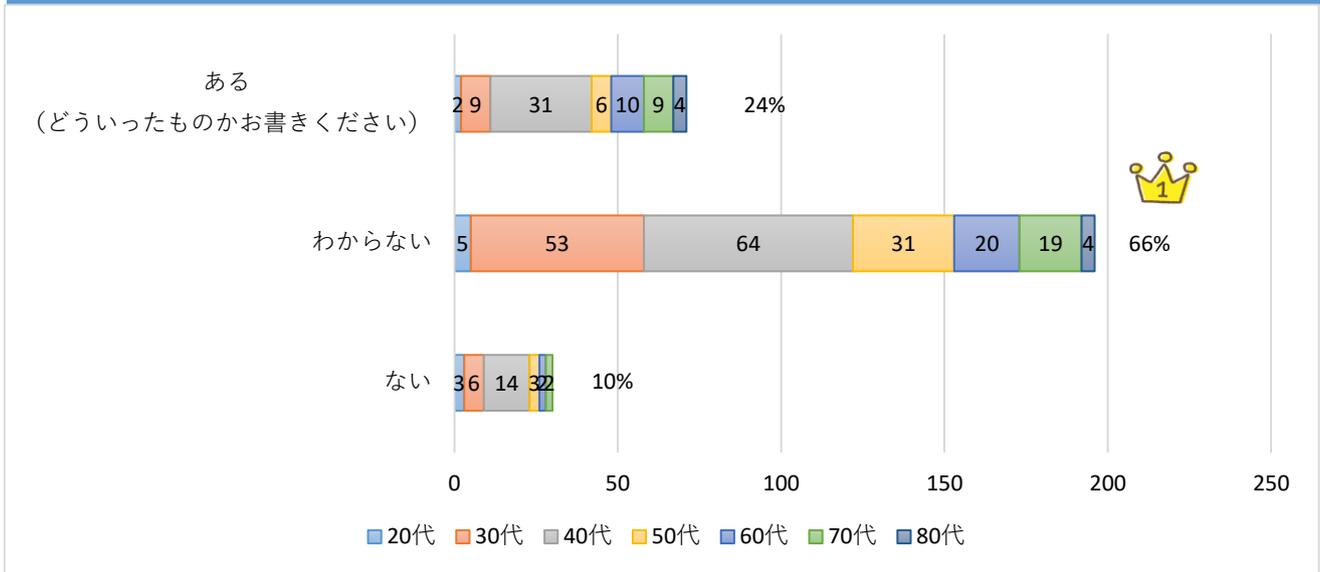
【協力したくない又はできないと回答した方（理由）】

・現在、他のボランティアをしており、手がまわらないから。 ・今の仕事では基本的に出張で市内にすることが少ない又は職場が遠方のため。土日祝日も出勤日があるため（同様の回答あり）
・時間的に無理なため（同様の回答複数あり） ・高齢者でも可能なことがあれば参加したいが、部活指導としてできるものがなさそう。 ・得意分野がないため。ただ、マネージャーや一般事務的なことを休日にやる程度なら、少しですが協力したい。 ・やりたいことが個別で違うことをよしとするならば、学校の枠におさめておくことが必要だと思っている。地域のクラブチームなどが活発化したほうが、むしろそれを応援する大人がつき連携に繋がるのではないか。こんなに塾や習い事が増えているのに対して、本当に現代においても部活動が必要なのか疑問だ。もし、金銭的に余裕のない家庭の子供だけが入っているチームなら支援するというのは理解できる。現状は、お金のある家庭の子供がより多くの機会を得て上に登っていく仕組みであり、それに対して支援が必要とは思わない。 ・子育て中で時間が無いため。 ・未就学児がいる。 ・子育てが一段落したら。（同様の回答複数あり） ・フルタイム勤務で仕事を持っている。福祉関係に従事している。（同様の回答複数あり） ・特技がない又はスキルがないので、指導出来ることがないため。また、仕事で参加できることが難しいため。（同様の回答複数あり） ・高齢化のため。体力がない。資格がない。（同様の回答複数あり） ・私は、現在67歳です。若い頃に、何かしっかりと身に付いた技術を持ち、子ども達に指導できるようにと意識していたら・・・と残念に思います。今現在、若い方々に、将来、子供達に関わる活動が出来るように取り組みを起こすなど・・・体育大学卒業生或いは健康スポーツ関連卒業生のご協力をあおぐ等々、新しい試みを進める事を望みます。まだ仕事してますので、興味はありますが今は協力できないと思います。 ・休日を返上してボランティア活動はできない。 ・休日は家族と過ごしたいため（同様の回答あり） ・勤め先が副業禁止である。 ・責任ある立場で教えるほどではない。 ・20年ほど、野球審判として学童（小学生）や中学生の活動に関わっていますので、指導者というより、サポートをしていきたいと思います。 ・先生の負担が減るため良い取り組みだと思う。しかし、私自身は部活動に対する関心が薄いため協力はしない。 ・仕事、家庭と、会計年度任用職員による収入・割り当てる時間とのバランスが取れないと考える。 ・体調不良、身体上の理由（同様の回答複数あり） ・子供がいないので学校との関わりがない。（同様の回答あり） ・教員、PTAや部活動役員として参加しているため。 ・現在、第四小学校の読み聞かせには参加しています。 ・コミュニティスクールでは活動中です。 ・自分の専門性としては、部活より探求学習などで協力できそうです。（またはそういう部活があれば） ・引率など、自分ができる範囲なら協力したい気持ちはあるが、生徒に指導できる知識も技術もないので、生徒に迷惑がかかってしまうと思う。知識や技術のスキルアップができる体制ならいいのですが。 ・何か問題（事故等）があった時の責任問題など課題が多いと思うから。 ・きちんと外部の業者に委託するべき。 ・方針に賛同しにくいところがある。 ・実技指導以外は、子どもの自主性に任せた方が良い。大会への申し込みや練習試合の調整、参加なども、やり方を大人が教えてあげれば、子供達でできる。 ・高齢の親のサポートをしているため、感染症をもらう可能性がある所にはできるだけ行かないようにしているため。

<コメント>

休日の中学校部活動移行について、どちらとも言えないという回答が多いことがわかりました。また、ご協力いただける回答では、各種目があることがわかりました。協力できないと回答された方のご意見も参考とさせていただきます。

問10 あなたがお住いの地域に、子どもたちが地域に出て、授業として学べるものはありますか



※パーセントは当該選択肢を選んだ方を回答者の中で割った数値となっております。

【あると回答した方(どういったものかお書きください)】

・おまつりの手伝い。(出店のお手伝いや飾り作り) ・ハロウィンと連動して地域の防犯について考える、自治会活動、町内パトロール等。(同様の回答あり) ・デイケア施設との恒常的な訪問や共同作業、活動。 ・社会科(特に歴史、地域の風習や故事来歴)の授業として近辺の神社仏閣や名所見学。市役所や市会議場を見学することにより、市の行政等を理解する。 ・田畑が多いので、農業体験やお手伝い。(高齢化して人手があると助かるのではないかと) そのほかの職業など、受け入れようと思えば大人が機会を持つとすれば学べる機会はあるのではないかとと思う。(同様の回答複数あり) ・八百屋などのお店、遺跡、公園、アビスタなどの市の施設。(同様の回答複数あり) ・船戸の森、手賀沼トラスト。(自然・環境・体験学習)(同様の回答複数あり) ・地域のビジネスの手伝い等職業体験。(同様の回答複数あり) ・手賀沼の素晴らしい環境を肌で感じ、春夏秋冬四季の自然を身に持って体験し、体が若くみずみずしい内に地球環境の有り難さを己れの感性に焼き付けてほしい。スマホ画面上の偽物では無い、本物の日々移り変わる地球を生身に受け感動し、味わう感性を養って欲しい。 ・議員さんと会う。(選挙の大切さを学ぶ) ・地域の経営者と話す。(お仕事の多様性理解) ・田植え、NECと協力。(英会話もイベントになりそう) ・地域を保全するボランティア団体など。 ・高齢者と交流できるスポーツ等を通じて高齢化社会の実態を知る。(グランドゴルフ、バードゴルフゲートボール、ペタンク等) ・町探検、市内バスツアー。(同様の回答複数あり) ・記念碑などの清掃から町の歴史を学ぶ機会を作る。 ・東我孫子カントリークラブでゴルフ体験。(同様の回答複数あり) ・1.挨拶運動2.高齢者とのお話回会3.我孫子の歴史遺産巡り。 ・市の教育政策、子ども政策について対話したり、市の施策立案について評価したりする経験を積む。 ・夏休みのイベントとして、アビスタで開催されているものや、大学生が教えてくれる勉強会のようなもの。(同様の回答あり) ・アビコスタイルでの行事など。

<コメント>

子どもたちが地域に出て授業として学べるものでは、多岐にわたりご意見をいただきました。体験や社会学習の参考とさせていただきます。